

「令和」改元に思う

～「文化」としての元号～

シンキング・バーズ
歴史科学研究班

寿ぎの幕開け 日本固有の時代の節目

新しい元号の時代が幕を開けました。「令和」と名づけられた新元号時代の到来です。この元号転換を日本のメディアは、「平成」時代を回顧しつつ、新天皇陛下の即位を寿ぐニュースとして報じました。時代の転換点を迎えた祝賀ムードのニュースは、日本国民の今の一面を映していました。世界的には稀有な「文化 (Culture)」としての元号の更新を、一つのエポックとして喜びたいと思います。

●幕開けに隔世の感

昭和天皇の崩御に伴う「昭和」から「平成」への時代転換を、ボクは、ある地方新聞社の編集局員として、1989年早々に体験しました。戦争一敗戦一戦後復興一高度経済成長一オイル・ショック一バブル経済と、起伏の激しい時代だった「昭和」の幕引きは、米ソ冷戦終結の年と重なり合い、「終焉」の色合いが濃いものになりました。新聞社内で封印して来た「昭和」を回顧する記事が、崩御の記事と共に全紙面に割り付けられ、「始まり」より「終わり」を意識せざるを得ない雰囲気でした。半旗を掲げた街には、喪に服す自粛ムードが漂い続けていました。

あの時のムードに比べると、今回の時代転

換は、隔世の感がありません。特例法による存命中の代替わりということもあり、慶賀を共有するムードに包まれた印象を受けます。時代の節目として、それも一つのありようなのかもしれません。



●元号の歴史と法的な根拠

元号という制度を、国家として公式に堅持している国は、日本に限られます。かつては中国大陸や朝鮮半島などに存在した各王朝が、帝位や王位と連動して、独自の元号を定めた歴史がありました。しかし、発祥の地の中国では、清が滅びた辛亥革命 (1911年) 以降、その使用は途絶えました。朝鮮半島では、日本による韓国併合 (1910年) 以降、独自の元号はなくなりました。戦後は、各国共に西暦を公式の暦年としています。

日本では、乙巳の変 (大化の改新 645年) 後に定められた「大化」が、最初の元号とされています。鎌倉時代末期と南北朝時代に、二つの元号が並立した時代 (中国では、三国時代や南北朝時代など、複数元号の時代があった) があり、それを含めて「令和」は、249番目 (私年号＝白鳳等を除く) の元号です。

しかし、日本の元号が、法的に規定されたのは、明治時代以降のことです。1889年 (明治22年) 制定の『皇室典範 (第12条)』で、「一世一元制度」が正式に法制化されたのに

伴い、法的根拠を持ったと言えます。その後、敗戦でその効力は失われますが、1979年（昭和54年）に元号法が制定され、「政令によって定める」とする現行の法的根拠を持ちました（1947年～79年までの「昭和」も、遡って法的根拠を持つとされました）。当時は、一定の勢力による「元号法制化反対」の主張があったと記憶しています。

つまり、近代法制上の公式の元号は、「明治」「大正」「昭和」「平成」「令和」に限られ、「令和」が5代目になります。

●実用面での元号（年号）

実 用レベルの元号（年号）使用の一つに、この文章のような歴史的内容を含む記述があります。ボクの場合、日本史上の出来事は、「2019年（令和元年）」のように西暦を優先し、年号をカッコ書きする記述法を採用しています。これは、世界史上の出来事を西暦表記（「2019年の米朝首脳会談」のような書き方）とする記述法と、整合性を保つためです。日本固有の年号を、他国の歴史的な出来事に適用するのは適性に欠けるという判断と、和洋暦併記を常用する時間ロスを考えると記載しない方が適切と判断するからです。

また、官公庁提出書類や電子メールを含む案内文などは、公式性や正規性の度合いに応じて、使い分けることにしています。例えば、平易なメールや案内文、あいさつ文などは、西暦表記のみを使います。しかし、年賀状などには年号を使い、公式に官公庁に提出する書類は年号表記を基本としています。

つまり、ボクの場合、基本的な暦年表記は、西暦が軸になります。現在執筆中の「近代」を考察した文章も、ヨーロッパ史を扱った部分は西暦のみ、日本史を含む部分は和洋暦併記です。いずれにしても、実用面で「年号」と呼ぶ暦年は、面倒な仕組みの一つです。

●東アジア的「文化」として

ボクは、東アジア地域で唯一保持されている日本の元号には、相応の文化的価値があると考えています。BC140年頃に、前漢の武帝が「建元」と定めたことが始まりとされる元号は、東アジア史的には、2000年以上の歴史を持っています。各国固有の暦年編纂があったとはいえ、東アジア的「文化」形態の一つです。

元号制定という行為自体は、歴史的に見ると政治的色彩が強いものでした。ある君主の統治を人々に知らしめる手法の一つとして、使われ続けたと言えます。薩長勢力が主導した「明治」への改元も、極めて政治的色彩の強いものでした。いわゆる「御一新」を人々に知らしめるためだったのですから、検証するまでもなく政治的です。

「一世一元」は、明治時代以降の規定です。そのため、敗戦による大きな時代転換となった1945年（昭和20年）は、改元されることなく、「昭和」が継続することになりました。元号の本来の趣旨からすると、新たな時代の幕開けとなった「戦後元年（1945年）」は、政治的に改元されてしかるべき転換点でした。しかし、その政治的変更に至らなかったことが結果的に幸いし、「文化」の色合いを強めて行ったのかもしれない。

この先の日本の元号が、政治的意図を持つ勢力に利用されるリスクはない、とは言い切れません。また、元号が持つ実用性の側面から、その廃止を唱える主張が優位を占める可能性はない、とも言い切れません。

ボクは、日本の元号は、東アジアの歴史が生んだ貴重な「文化的呼称」と考えています。漢字文化圏に固有の「文化」です。かつての政治的利用の時代とは距離を置き、戦争未体験世代を象徴する呼称として、「令和」が、「文化」として寿がれるよう望んでいます。

（令和元年5月5日）

シンキング・バース新書

「令和」改元に思う
—「文化」としての元号—

2019年5月5日（初版）発行

著者：シンキング・バース
歴史科学研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。

シンキング・バース新書

ボクとワタシの日本語診断
ワタシたちの「日本」

2018年6月23日（初版）発行

著者：シンキング・バース
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。